

# 公民館経営診断におけるリンケージ開発の予備的考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原, 義彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/25016">https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/25016</a>

# 公民館経営診断におけるリンケージ開発の 予備的考察

原 義 彦

## 要旨

本稿は、公民館経営診断技法を開発する研究の一環として、これまでに提示している公民館経営診断のリンケージの分類項目を検討するとともに、新たなリンケージの作成を行うものである。リンケージの考え方に基づく公民館経営診断では、公民館の問題状況を表す「診断名」、何らかの手立てによって解決されるときに期待される状況を表す「改善・整備による成果」、及びその解決の手立てである「改善・整備」の三者の分類項目が設定されていることが必要である。ここでいう経営診断のリンケージとは三者の分類項目間の関連のことである。分類項目の検討では、公民館の利用の面や事業の面の診断名については、これまでの診断名が活用できると考えられる。他方、今回の調査結果に基づいて新たに追加することが可能な内容は、地元講師の発掘や育成に関すること、コロナ下あるいはコロナ後の事業や交流・仲間づくりに関すること、施設の情報環境整備に関することなどがある。ここでは、新たに「コミュニティ事業への参加者・団体の減少」「公民館の理解不足、認知度が低い」「地元講師の育成」のリンケージを作成した。

## 目 次

- 1 問題の所在
  - 2 研究方法
    - 2.1 分析枠組
    - 2.2 分析方法
  - 3 公民館経営診断のためのリンケージの検討
    - 3.1 回答のあった公民館の概況
    - 3.2 本調査における充実、改善したいこと、及びその取り組みと成果
    - 3.3 「診断名—整備・充実の成果—整備・充実の方法」のリンケージの検討
- 終わりに

## 1 問題の所在

本稿は、公民館経営診断技法を開発する研究の一環として、これまでに提示した公民館経営診断のリンケージの分類項目を検討するとともに、新たなリンケージの作成を行うものである。リンケージの考え方に基づく公民館経営診断では、公民館の問題状況を表す「診断名」、何らかの手立てによって解決されるときに期待される状況を表す「改善・整備による成果」、及びその解決の手立てである「改善・整備」の三者の分類項目が設定されていることが必要である。ここでいう経営診断のリンケージとは三者の分類項目間の関連のことである。

公民館は、地域における生涯学習推進の中心的な社会教育施設である。全国的にはその数

は減少傾向にあるが、文部科学省（2022）によれば、2021年10月現在、全国には13,163館の公民館があり、図書館や博物館など他の社会教育施設と比較して多くの施設が各地域に存することがわかる。また、中央教育審議会生涯学習分科会（2022）では、社会教育施設の社会的包摂や地域コミュニティづくり、地域課題の解決等に果たす役割が述べられている。さらに、公民館には、「地域のコミュニティ拠点機能の強化を図る観点からは、子供の居場所としての公民館の活用、住民相互の学び合い・交流の促進、各地方公共団体における関連施設・施策や民間企業等との連携を進める」ことへの期待が示されている。

一方、公民館の運営体制は厳しい状況があり、人的体制では、公民館1館当たりの専任職員は0.4人、兼任職員を含めても1.1人となっている<sup>1</sup>。このほかに、非常勤職員がいる場合もあるが、そうであったとしても限られた職員による事業運営が求められている。財政面においても厳しい状況は同じで、限られた予算の中で事業が展開されている。このような状況の中でも、地域住民の学習ニーズに合わせた事業や地域課題の解決につながる事業を展開している公民館がある。これに対して、上で示したような、今般、公民館に求められている役割を十分果たせていない公民館もある。公民館を支援する視点からすると、公民館の運営や事業の更なる充実と向上を目指す支援と、公民館に求められる役割を果たせるようにする底上げ的な支援が必要である。

このような公民館の支援に関わることができるのが公民館経営診断である。公民館経営診断とは、公民館経営の現状を把握し、その問題点と欠陥を明確にするとともに、適切な改善方法や整備の方法を提示することである。そのための手法が公民館経営診断技法であり、これが公民館を支援する一助となると考えられる。

公民館経営診断技法におけるリンケージ開発に関わる先行研究では、公民館調査に基づいて、公民館経営診断における「診断名」「改善・整備による成果」「改善・整備」のそれぞれについて、具体的な内容を表す項目（ラベル）とその分類の一覧が示されている（原，2016）。この中で、公民館の問題状況を表す「診断名」では、「事業のPDCA」「交流、地域づくり」等の5領域において合計52項目、「改善・整備による成果」では4領域に合計36項目、「改善・整備」では4領域に合計41項目が示されている。いずれも項目名の候補ではあるが、「診断名」「改善・整備による成果」「改善・整備」の項目分類が行われている。さらに、原（2017）は、これらの項目分類を用いて、公民館の経営改善事例をもとに、「診断名」「改善・整備による成果」「改善・整備」における各項目どうしの連関を検討し、リンケージの作成を試みている。例えば、「講座参加者・利用者の固定化」を改善するためのリンケージ、「講座内容の充実」のためのリンケージ等、7つのリンケージを示している。

これまでの研究によって、公民館経営診断におけるリンケージの作成が進められているが、

項目分類はまだそれが試案的に示されたのみで、その妥当性や有効性の検討が必要な段階にある。また、経営診断ではより多くのリンケージが用意されていることが必要である。そこで、本稿では、公民館経営診断におけるこれまでの項目分類の検討を行うとともに、新たなリンケージの開発を行う。

## 2 研究方法

### 2.1 分析枠組

本稿での分析ではこれまでの研究と同様に、看護診断における「診断名」、「看護成果分類」、「看護介入分類」<sup>2)</sup>のリンケージの考え方を参考にした分析枠組を用いる。図1は、公民館経営診断における「診断(名)」、改善・整備による成果、改善・整備の関係を示している。「診断(名)」とは、公民館の問題状況(良好な状況のときもある)を示すもので、項目や指標で表される。「改善・整備による成果」は、診断名の問題状況が改善された状態や解決した状態を示す。「公民館経営の改善・整備」は、「改善・整備による成果」を期待できる手立てや取り組みである。

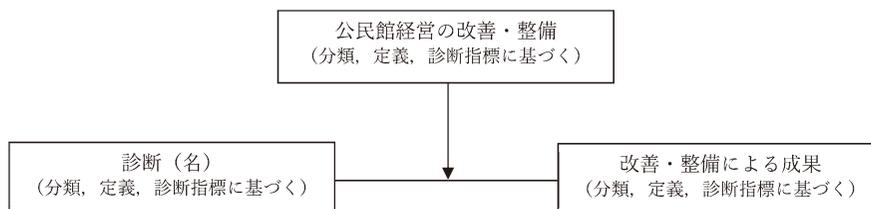


図1 公民館経営診断における診断、改善・整備による成果、改善・整備の関係  
(出典:黒田裕子(2008), p.76の図をもとにした。)

### 2.2 分析方法

本論文の分析のため、長野県内の公民館を対象にした調査を行なった。調査の概要は表1の通りである。このうち、公民館の経営改善事例についての調査結果から、診断名、改善・

表1 調査の概要

調査期間	2021年12月9日～12月28日
調査対象	長野県内の公民館(中央館、地区館)のうち、長野県公民館運営協議会所有の「公民館一覧」に掲載の公民館(249館)。
調査方法	長野県公民館運営協議会より、長野県内各郡市公民館連絡協議会を通じて各公民館に回答を依頼。回答は、ウェブサイトからの記入、または、質問紙に記入後、電子メールによる返信のいずれか。
回収状況	回収数71、回収率28.5%
主な調査内容	理念やモットーの有無、公民館の改善・充実の課題、取り組み事項とその成果、概ね3年後に実現したいこと、講座参加者の固定化を改善する方法、講座参加者の減少を改善する方法、事業の質の維持・向上に必要なことなど。その他、公民館の基本情報。

整備による成果，改善・整備に相当すると考えられる内容を抽出する。また，これらの連関を分析して，その妥当性を検討する。

### 3 公民館経営診断のためのリンケージの検討

#### 3.1 回答のあった公民館の概況

ここでは，今回の調査で回答のあった71館の公民館の設置と管理運営の状況を概観する。まず，設置状況として，公民館の設置者では，市が78.8% 全体の8割弱を占めている（表2）。中央館と地区館の別では，中央館が35.2%，地区館機能を併有した中央館が5.6%で，これらを合わせると中央館機能を持つ公民館は40%を超える（表3）。また，地区館は55.0%であり，全体の半数を超えている。次に，管理運営の形態では，市町村直営が93.0%であり，指定管理が7.0%である（表4）。館長の勤務形態は，専任が32.4%，兼任が19.7%で，最も多いのは非常勤の46.5%である（表5）。教育系職員数では，1人が47.9%で最も多く，次に多いのは2人（17.0%）の場合である（表6）。

さらに，公民館運営に関して，明文化した理念やモットーがある公民館は57.7%である（表7）。また，今後の運営の見通しとして，概ね3年後に目指したいことや実現したいことにつ

表2 設置者 (% (実数))

市	町	村	無記入	計
78.8 (56)	9.9 (7)	11.3 (8)	0 (0)	100.0 (71)

表3 中央館と地区館の別 (% (実数))

	中央館・地区館機能併有	地区館	その他	無記入	計
35.2 (25)	5.6 (4)	55.0 (39)	4.2 (3)	0 (0)	100.0 (71)

表4 管理運営の形態 (% (実数))

市町村直営	指定管理	無記入	計
93.0 (66)	7.0 (5)	0 (0)	100.0 (71)

表5 館長の勤務形態 (% (実数))

専任	兼任	非常勤	無記入	計
32.4 (23)	19.7 (14)	46.5 (33)	1.4 (1)	100.0 (71)

表6 教育系職員数 (% (実数))

0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無記入	計
8.5 (6)	47.9 (34)	17.0 (12)	8.5 (6)	2.8 (2)	9.9 (7)	5.6 (4)	0 (0)	100.0 (71)

表7 明文化した公民館の理念やモットーの有無  
(% (実数))

ある	ない	無記入	計
57.7 (41)	42.3 (30)	0 (0)	100.0 (71)

表8 概ね3年後までに目指したいことや実現したいことの有無 (% (実数))

明確な考えがある	漠然としているがある	そのような考えはない	あまり考えたことはない	その他	無記入	計
21.1 (15)	28.2 (20)	19.7 (14)	29.6 (21)	1.4 (1)	0 (0)	100.0 (71)

表9 新型コロナウイルス感染対策として行ったこと

感染対策としての対応内容	比率 (% (実数))
開館時間、開館日数の短縮	78.9 (56)
主催事業（講座・集会行事等）の延期、中止	94.4 (67)
主催事業（講座・集会行事等）の内容の変更	57.7 (41)
主催事業（講座・集会行事等）の実施方法・形態の変更	73.2 (52)
新しい主催事業（講座・集会行事等）の企画・実施	31.0 (22)
広報・情報提供の内容・方法の充実	40.8 (29)
その他	7.0 (5)

(複数回答)

いて「明確な考えがある」が21.1%、「漠然としているがある」が28.2%となっている(表8)。他方、「そのような考えはない」が19.7%、「あまり考えたことはない」が29.6%である。これを見ると、概ね3年後に目指すことや実現したいことがある公民館とない公民館が、それぞれ約半数となっている。

最後に、表9は、2019年以降の新型コロナウイルス感染対策として公民館が行った内容を示している。最も多いのは「主催事業（講座・集会行事等）の延期、中止」(94.4%)である。次いで、「開館時間、開館日数の短縮」(78.9%)、「主催事業（講座・集会行事等）の実施方法・形態の変更」(73.2%)となっている<sup>3</sup>。他方、このような状況の中で、「新しい主催事業（講座・集会行事等）の企画・実施」をした公民館が31.0%ある<sup>4</sup>ことがわかる<sup>5</sup>。

### 3.2 本調査における充実、改善したいこと、及びその取り組みと成果

今回の調査では、「診断名—整備・充実の成果—整備・充実の方法」のリネージの検討を行うにあたり、その検討材料となる資料を以下の3段階の質問を通して収集した。その第1段階として、表10-1は、日頃、公民館をもっと充実させたり、改善したいと思っている

ことの有無を示したものである。ここでは、このようなことが「ある」との回答が77.5%あった。次に、第2段階として、第1段階で「ある」と回答した公民館に限定し、「ある」と回答したことについての公民館の充実や改善・整備の取り組み状況を尋ねた結果が表10-2である。ここでは、「すでに取り組んでいる」が67.3%、「今後取り組みたいと考えている」が20.0%、「取り組んでいない」が12.7%であった。さらに、第3段階では、第2段階で「すでに取り組んでいる」と回答した公民館に限定し、その取り組みによる変化や成果を感じているかどうかを回答していただいた。表10-3はその結果である。ここでは、「変化や成果を感じている」が48.6%、「変化や成果のきざしを感じている」が40.6%となっており、公民館の充実や整備・改善に取り組んでいる公民館のうちの約9割の公民館が、少なくともその取り組みによる変化や成果のきざしを感じているということになる。

表10-1 日頃、もっと充実させたり、改善したいと思っていることの有無 (%)

ある	ない、またはあまりない	無記入	計
77.5 (55)	21.1 (15)	1.4 (1)	100.0 (71)

表10-2 公民館の充実や改善・整備の取り組み (% (実数))

すでに取り組んでいる	今後取り組みたいと考えている	取り組んでいない	無記入	計
67.3 (37)	20.0 (11)	12.7 (7)	0 (0)	100.0 (55)

表10-3 公民館の充実や改善・整備の取り組みで感じる変化や成果 (% (実数))

変化や成果を感じている	変化や成果のきざしを感じている	あまり感じない	無記入	計
48.6 (18)	40.6 (15)	10.8 (4)	0 (0)	100.0 (37)

そこで、調査で回答のあった「もっと充実させたり、改善したいと思っていること」が「ある」場合の具体的な内容、「公民館の充実や改善・整備の取り組み」を「すでに取り組んでいる」場合の具体的な内容、「公民館の充実や改善・整備の取り組みで感じる変化や成果」については「変化や成果を感じている」及び「変化や成果のきざしを感じている」場合の具体的な内容をまとめたものが表11である。

ここには、各項目で回答のあった具体的なケースについて、「充実・改善したいこと」「取り組みによる変化や成果」「充実、改善・整備の取り組み」の順に記載している。また、各ケースは、「充実・改善したいこと」の内容に類似性のあるものをまとめて一覧にした。ただし、調査の回答において「充実・改善したいこと」に2つ以上の内容の回答がある場合は分ける

公民館経営診断におけるリネージュ開発の予備的考察

表 11 公民館の充実・改善の課題とその取り組みによる変化や成果

ケース	充実、改善したいこと	取り組みによる変化や成果	充実、改善の取り組み
1	公民館利用者の拡充、各年齢層に向けた講座の企画	新規講座参加者の拡充	公民館活動のPR
2	利用者増	少しだが利用者増が図れているように感じる。	チラシ等による広報活動
3	各教室や事業への参加者の減少		
4	利用者数、参加者数の増加と登録団体の増加		幅広い年代が参加できる新企画の作成、SNSの利用
5	事業内容の見直しによる利用者の拡大と新規団体の募集	年々参加者が増加傾向となった。要因は参加者からの呼びかけが強くなるかがわかれた。	①他団体と連携し内容の充実 ②未利用団体への利用要請
6	自主事業の増加と参加者の増加		参加者からの声を聴く、アンケート
7	利用者の増加。特に子育て世代や現役で働いている方などが参加しやすい講座を企画していきたい。		来年度から月1回大人向けの講座を開催予定
8	公民館利用団体の増加		実施希望講座のアンケート
9	公民館利用団体の増加 地域づくりに関する取組みの充実 開催講座の満足度向上		地域づくり推進委員会の活性化
10	子供・男性の参加、新規の講座参加者	公民館利用者が増えている。	夏休みの子ども向け企画
11	女性ばかりに偏りがちな講座への男性の参加	山城登城講座は、〇〇研究会というサークル活動に発展した。会員94名+企業会員4社	地域の歴史講座など、性別問わず住民のニーズに合わせた講座設定
12	高齢男性や若者の利用増加 当館専門員の（町住民）の人数増加	新規講座への参加者が増えた。 編集委員への参加数が増えた。	男性や若者が参加しやすい新講座や教室の開設 公民館利用団体と連携した町内情報紙の編纂事業
13	公民館実施事業への若者や成人男性の参加増	夜間の講座について参加者の平均年齢が若干下がった。	講座申込・実施時間の変更
14	若年層の利用がほとんどないこと		
15	男性の参加しやすい講座の充実		
16	子育て世代の講座への参加を。		
17	世代を超え子供の公民館利用者の増加を図りたい。	主に生涯学習を行う場所が公民館であることが分かり始めた。	小学校のコミュニティースクールを活用し、公民館の存在を児童によく理解してもらうための出前講座を行った。） 現在コロナ感染防止のため休止
18	住民講師の掘り起こし、若年層の利用促進のための講座企画		関係団体（住民自治協議会等）との協働による講座開催
19	講座参加者の固定化	講座参加者が自主的にサークルを結成し、学習成果を地域で生かしている。	地域住民のニーズに沿った講座を企画するよう心がけている。
20	青少年向け講座など幅広い年齢層を対象とした事業や主体的な学習の充実	子どもや親子など幅広い年齢層の参加者が増加	小中学生対象講座や親子体験講座の充実
21	事業のマンネリ化の改善、住民による講座の企画・運営		公民館講座から自立し、サークル活動へ発展させる。

22	事業のマンネリ化の改善及び多世代が交流できる事業	講座参加者の年代が広がったり、世代間交流の輪ができた。	既存の事業をリニューアルして多世代が交流できるような仕掛けをする。
23	事業のマンネリ化の改善	受講者の幅が広がった。	新分野の講座の企画
24	事業のマンネリ化の改善 公民館利用団体の増加 自主グループの立ち上げ	今まで講座に参加したことがないような方が増えた。	毎年、事業を見直している。
25	講座のマンネリ改善 登録団体について案内し公民館利用団体の増加		長期継続利用者への理解
26	事業のマンネリ化の改善 公民館利用団体の増加		検討会の開催。 利用周知の拡充、利用増につながる講座等の開催など。
27	事業マンネリ化の改善 公民館利用団体の増加		講座内容等の変更
28	事業のマンネリ化の改善		
29	事業のマンネリ化の改善 若年層の参加 公民館利用者増加 地域文化の伝承・掘り起こし	そばの打ち手養成講座参加者も加わって第 27 回新そば祭りが開催できた。	そばの打ち手育成講座
30	講座のマンネリ化 施設の老朽化 利用団体の増加		新規の講座講師開拓、新ジャンルの講座開設
31	マンネリ化の改善 利用者の主体的な参画の促進		
32	新規講座の開設	参加申し込みが多い、参加者がとても意欲的	ニーズに応えた講座の開設
33	公民館事業の充実、イベント参加者の増、住民の交流等		常時模索中、住民に意向聞き取り等
34	地域の学び講座の充実。今まで行っていなかった講座を 親子学級の日数増 図書室の改善	講座アンケートで満足の割合が増加 図書室の新規利用者や冊数が大幅増	講師への交渉。常に職員同士で話し合う。 図書室を見やすくするための様々な工夫を細かい事でも実行する。
35	ニーズを的確にとらえた魅力ある講座の実施 活動の励みとして、公民館等の利用団体、講座終了者等への積極的な働きかけと機会の提供	好評の講座を開催できたこと。	アンケートの実施・地域住民との対話による情報収集・展示スペース等の PR
36	地域住民のニーズに応じた講座企画 地域住民の交流の場としての公民館施設の活用 自治公民館から頼りにされる公民館運営	公民館展示内容についての話題を耳にする。 足を運ぶ人が増えつつある。	施設を有効利用しての展覧会や発表展示の日常化 自治公民館へアンケートを通して必要な情報提供
37	地域住民のニーズをとらえた事業づくり 地域の伝統を取り上げた事業実施	和ぼうきに関心を持つ若者の育成	地域の伝統技能を生かした和ぼうきづくり

公民館経営診断におけるリネージュ開発の予備的考察

38	住民のニーズの把握と公民館の目的に沿った事業の展開	新たな社会教育関係団体が複数立ち上がってきている。	新規講座の立ち上げ。さらに、その中から開設された講座をきっかけにして、社会教育関係団体の立ち上げにつなげる。
39	フレイル予防講座の充実	他の講座への参加人数が増えている。	週一での講座
40	どんぐりプロジェクトの充実	地域の多様な団体が主体的に協力している。	旧〇〇小・中学校の学有林を再生し、住民の憩いの場として整備する「どんぐりプロジェクト」に取り組んでいる。
41	オンライン学習環境の充実	環境整備が完了するのを楽しみに待つという声をいただくようになった。	無線 LAN アクセスポイント設置工事
42	ネット環境の整備		設置に向けて動いている。
43	地域の大学生との連携、デジタルツールの活用		大学生に講師を依頼ほか
44	地域づくり活動の充実	コロナ禍での事業に積極的に参加協力していただいている。	地域づくり推進委員会の活発化
45	住民による主体的な取り組み	実行委員が進んで活動し始める。やらされ感から自らやろうとする姿が見られる。	実行委員会の立ち上げ
46	地元講師の育成	講師依頼しての達成率約 50%	地域内からの人材の掘り起こし
47	新設され環境の整った施設を市民のために有効に活用してほしいこと	利用者の満足度がアンケートを通して感じる。	ネットやホームページを活用した情報発信
48	①ウイズコロナの共生に取組む ②参加し易い内容を表示  ③地域住民の要望の収集 ④時期と話題を掴む ⑤来館者と常に触れ合える関係の構築	①継続講座での友達間の広がり ②集いあう素晴らしさを感じます。 ③関連講座の開設依頼	(内容：①～⑤) 来館者との触れ合いを常に意識して会話を努めています。(向こうから)来てくれることに感謝、意思の疎通が基本と考えています(無ければ、先へは進まない)。
49	SDGs への取り組み		SDGs 目標 4 及び目標 13
50	施設の修繕・改修 職員の増員 ボランティアの育成 新規講座の実施	講座への出席が、ある程度定着している。	ボランティアの育成のための講座新設
51	施設等の修繕	利用者等の反応	展示スペースの改善
52	公民館の敷居を下げる。     古い施設で暗いイメージがあるので、明るいイメージになるようにする。	ゆる活は 4 回実施したが、今まで公民館活動にあまり参加したことない人や、「ゆる活」に参加してはいるが、「気になって自分にあうテーマがあれば参加したい」という声を聞いた。 ロビーの飾りつけも好評	公民館の敷居を下げるために新しい事業(「ゆる活」：テーマを設けて好きなことをゆるく語り合う講座)を今年度から実施  また公民館を明るくするためロビーの飾りつけ(クリスマスツリー展示など)を実施
53	市内施設等の周知と有効活用 住民から提案された企画の実現	参加者増とアンケートでの満足度 UP	

ことはせず、そのまま記載した<sup>6</sup>。また、「充実・改善したいこと」がある場合でも、「充実・改善の取り組み」の記載がないケース、「取り組みによる変化や成果」の記載がないケースがある。

まず、各ケースの回答に見られる「充実、改善したいこと」の内容の傾向と特徴をみておきたい。「充実、改善したいこと」にみられる内容として、第一に公民館利用に関わる課題として、利用者の増加や拡充に関わることがある（ケース 1, 2, 4, 5, 7, 29 など）。このような利用者全般の増加を課題としてあげるケースに加え、男性利用者の増加（同 10, 11, 15 など）、若年層や青少年の利用拡大（同 13, 14, 29 など）、子供の利用者の増加（同 17）、子育て世代の利用増（同 7, 16）、現役世代の利用増（同 7）のように、男性の利用や、特定の世代に焦点を当てた利用者の増加が挙げられている。このほか、対象は限定せずに新規の講座参加者の増加（同 10）などがある。なお、これらの課題への取り組みやその成果の記載をみると、ここでの利用者とは主に公民館が実施する講座の参加者のことと考えられる。このような主旨を内容とするのは 18 ケースあり、全体の 1/3 に達する。利用に関する課題は、このような講座への参加者の増加とともに、公民館の団体利用に関する課題があり、利用登録団体の増加を充実、改善したい内容として挙げるケースが見られる（同 4, 5, 8, 9, 24, 25, 26, 27）。

「充実、改善したいこと」にみられる第二の内容として、講座等の公民館事業に関する課題がある。その中でも多いのは、「事業のマンネリ化の改善」を挙げているケースである（同 21～31）。事業のマンネリ化の意味は漠然としているが、事業の内容や方法・形態などに新規性がないまま継続されているような状態などが考えられる。このような点を取り上げていると考えられる「新規講座の開設」やこれに類する内容を、充実・改善したい内容に挙げているケースも見られる（同 32, 34, 50）。さらに、事業のマンネリ化の改善や新規講座の開設などにも通じる「住民ニーズをとらえた事業の企画」のように事業や講座の企画として具体化した内容を取り上げているケースが見られる（同 35, 36, 37, 38）。このほか、事業のテーマを挙げたものとして「地域の伝統を取り上げた事業の実施」（同 37）や、特定の講座や事業を挙げているケースがある（同 39, 40）。

これらのほか、ケースは少ないが、地域づくり活動の充実に関わる内容（同 44）、住民参加による活動の推進に関わる内容（同 12, 45）、地元講師の掘り起こしや育成に関わる内容（同 18, 46）、インターネット環境やデジタル環境整備に関わる内容（同 41, 42, 43）、等がある。

なお、これらのケースの中で、ケース 36, 48, 52 は、他とは異なる内容で特徴的である。ケース 36 は自治公民館から頼りにされる公民館運営という他の公民館との関係性に着目している点である。ケース 48 は、コロナとの共生のあり方と、住民や利用者との関係づくりを取り上げている点である。これは、昨今の新型コロナウイルス感染対応の中で求められて

いるもので、これまでのリンケージでは検討されていない新しい課題である。ケース 36 と同 52 は、公民館どうし、あるいは公民館と住民や利用者との関係性の構築に関わる内容で、住民や関係機関とのより良い関係づくりが求められる公民館においては重要性の高い内容と考えられる。また、ケース 52 の内容は公民館のイメージ形成に関わるもので、公民館の普及啓発、利用促進など多方面への影響が期待できる。

### 3.3 「診断名—整備・充実の成果—整備・充実の方法」のリンケージの検討

ここでは、「診断名—整備・充実の成果—整備・充実の方法」のリンケージの検討を行う。リンケージの開発では、「診断名」「整備・充実の成果」「整備・充実の方法」のそれぞれにおける項目分類の検討、及びそれらの項目間の連関の検討が必要である。

まず、「診断名」「整備・充実の成果」「整備・充実の方法」の項目分類を検討する。それぞれの項目分類は、原（2016）において試案的に示している。今回の調査で得られた表 11 のケースの内容に基づいて、新たに追加する項目があるかどうかを検討する。項目となりうるかどうかの基準には、内容が新しいこと（新規性）、項目の内容が分かりやすいこと（明瞭性）、具体性のレベルが細かすぎないこと（適度な具体性）、多くの公民館に共通すること（汎用性）、経営診断への効果（有効性）、経営診断に必要であること（必要性）などがある。

「診断名」については、表 11 の「充実、改善したいとこと」が基になる。ここで多く挙げられていたのが公民館の利用に関する内容で、利用者数や講座参加者数の増加や拡大、利用団体の増加などがあった。この内容に関しては、原（2016）においてすでに診断名として「講座参加者数の減少、利用者の減少」「新規受講者が少ない」「自主学习サークル、団体の減少」が設定されており、新たに追加の必要はない。なお、表 11 の検討の中では、男性の参加を増やす、子供の参加を増やす、現役世代の参加を増やすなど、参加対象や利用対象を特定した内容が挙げられていた。これまで、このような個別の利用対象を明示した診断名は設定していない。その理由には、項目を過度に細かくすることで項目分類が膨大になることを防ぐため、また、項目全体で具体性のバランスを取るためなどがある。リンケージ開発の初期段階であることから、まずは、全体を網羅できる項目分類の作成を優先している現状がある。ただし、男性の利用者増や子供の利用者増で成果がみられる内容は、経営診断への有効性の点からは、今後、項目として追加していくことも考えられる。

利用に関わる内容と同様に、表 11 で多く見られた「事業のマンネリ化の改善」がある。マンネリ化の意味する内容が、事業内容のことか、実施方法や実施形態のことかが分かりにくい。これについては、これまでの診断名の「講座内容の充実」や「新規講座の開設」で対応できる可能性がある<sup>7</sup>。

以上のように、公民館の利用の面や事業の面の診断名についてはこれまでの診断名が活用できると考えられる。他方、今回の調査結果に基づいて新たに追加することが可能な内容は、地元講師の発掘や育成に関する事、コロナ下あるいはコロナ後の事業や交流・仲間づくりに関する事、施設の情報環境整備に関する事などがある。

次に「改善・整備の成果」の新たな項目を検討する。「改善・整備の成果」は「診断名」の問題状況が改善された状況を表す内容として設定される。そのため、今回の調査から考えられるのは、新たに追加が考えられる診断名に対応させて、地元講師の指導や活動に関する内容、コロナ下やコロナ後の新たな事業内容や形態などに関する内容、整備された情報環境を活用した事業に関する内容などを考えることになる。また、「改善・整備」は、「診断名」と「改善・整備の成果」の内容に応じた内容の項目になることが多い。「診断名」と「改善・整備の成果」の新たな項目に合わせ、必要に応じて項目を追加することになる。

さらに、今回の調査結果から作成が可能な経営診断のリンケージを検討する。経営診断におけるリンケージはその有効性が問われることから、表 11 において「取り組みにおける変化や成果」が見られるケースを参考にして、3つのリンケージを作成する。

まず、表 11 のケース 44 は、地域づくり活動に関する事である。ここからは、公民館が地域づくり推進委員会の活動を支援することによって、この委員会が地域づくり事業に積極的に関わることになったことが読み取れる。そこで、これまでに提示されている「診断名」「改善・整備の成果」「改善・整備」の分類項目から、それぞれに当てはまると思われる項目を選択したものが表 12 のリンケージである。これは、診断名を「コミュニティ事業への参加者・団体の減少」としている。「改善・整備による成果名」は、通常は 1 項目であるが、ここでは「地域団体の育成と活動支援」「住民の地域への関心の向上」の 2 項目を挙げた。「改善・整備による成果名」は、どのような成果を期待するかによって変わるものである。地域団体の育成や支援を期待する場合は前者の項目、住民の地域への関心の向上を期待する場合は後者の項目になる。これらを実現するための「改善・整備」の方法として、「公民館の支援組織、団体の育成」「組織、団体の育成、活動支援」を設定している。調査結果の取り組みの事例

表 12 「コミュニティ事業への参加者・団体の減少」のリンケージ

診断名	コミュニティ事業への参加者・団体の減少 (211)
改善・整備による成果名	地域団体の育成と活動支援 (414) 住民の地域への関心の向上 (612)
改善・整備名	公民館の支援組織、団体の育成 (217) 組織、団体の育成、活動支援 (216)

(注) ( ) の数字は、原 (2016) に示した項目の分類番号。表 13、14 も同じ。

から、このようなリンケージの作成が考えられる。

次に、表 13 は、ケース 36 の地域住民の交流の場に関する事例をもとにしたリンケージである。ここでは、地域住民の交流の場としての公民館施設の活用という点を、診断名の「公民館の理解不足、認知度が低い」としてとらえることにした。改善・整備による成果名は、ここでも 2 つを取り上げたが、事例から推察すると「住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上」だけでも良い。改善・整備名も 2 つあげており、1 つは「学習成果発表の支援」としている。施設を利用した展覧会を学習成果の発表の機会の工夫と捉えたことによる。もう 1 つは、交流拠点としてのあり方の検討を挙げた。

最後は、ケース 46 を参考に、「地元講師の育成」に関わるリンケージである（表 14）。これは地元講師が講座等において講師として活躍すること意図したリンケージである。「診断名」「改善・整備による成果名」はこれまでにないため、新規の項目である。「改善・整備」は 2 項目あり、1 つは事例をもとに記載したものと、もう 1 つはケース 18 の例を参考にして、既存の「他施設、団体との連携」を設定した。

以上のように、改善の事例を参考として、あらかじめ設定している「診断名」「改善・整備の成果」「改善・整備」の各項目の連関によって、リンケージの作成が可能となる。

表 13 「公民館の理解不足、認知度が低い」のリンケージ

診断名	公民館の理解不足、認知度が低い (411)
改善・整備による成果名	住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上 (615) 公民館の利便性向上、公民館の理解向上 (414)
改善・整備名	学習成果発表の支援 (413) 住民の交流拠点としての公民館のあり方の検討 (414)

(注) ( ) の数字は、項目の分類番号。

表 14 「地元講師の育成」のリンケージ

診断名	地元講師の育成
改善・整備による成果名	地元講師が指導者となる事業の実施
改善・整備名	地域の人材の掘り起こし 他施設、団体との連携 (211)

(注) ( ) の数字は、項目の分類番号。

## 終わりに

最後に、本稿の課題を簡潔に述べておきたい。ここでは、新たな公民館調査の結果を活用

して、公民館経営診断のリンケージの検討として、主に「診断名」「改善・整備の成果」「改善・整備」の分類の検討と、新たなリンケージの作成を行った。「診断名」「改善・整備の成果」「改善・整備」の分類においては、新規の項目追加を中心として行ったが、対象を分けた利用者や参加者の増加を目指す診断名の新設は課題となった。一方で、ここでは項目の削減の検討は行わなかったが、すでに示されている分類項目については、項目の具体性のレベルの点から修正が必要な項目がある。この点は、今後、検討を加えていきたい。また、今回は、新たに3つのリンケージを作成した。リンケージ作成の課題には、これらのリンケージが有効であるかどうかに関することがある。ここでは調査で回答のあった公民館において実践された事例であり、これが他の公民館で実現できるかどうかの実践的な調査が必要である。また、本稿では、記入式の調査で得られた回答を用いているため、公民館の実態や回答者の意向を十分に把握できていない点がある。公民館経営改善の事例の聞き取り調査などを行い、経営診断のための有効なリンケージの作成を進めていきたい。

#### 注

- 1 文部科学省（2022）によれば、2021年10月1日現在、全国の公民館の専任職員は6,611人、兼任職員は8,230人である。1館当たりの職員数は、これを用いて求めた。
- 2 診断名は対象の状況を示すものである。看護成果分類は診断名の状況が改善、回復した状態を示し、看護介入分類は看護成果が期待できる看護介入のこと。
- 3 これには、「料理教室の試食を無くして持ち帰りとした。」「発声から鑑賞・試聴の講座とした。」「作品展では発表をなくして展示のみとした。」「感染症対策の講座に変更した。社会見学先を県内に変更した。」「研修先の変更。屋外での活動に変更。」「史跡巡りをバス利用から徒歩に変更」など回答があった。
- 4 具体的には、オンラインによる講座、体を動かす健康講座、フレイル予防講座、家族でふれあいウォークラリー（市民運動会の代替として）、親子社会見学、CATVとの連携講座、小学生向けや休み中の講座、公共施設等の紹介等がみられた。
- 5 本調査では、公民館の運営の実態に関する項目のほかに、事業の改善や事業の質に対する考え方や意識を問う項目を設定した。その主な結果は次の通りである。講座参加者の固定化を改善し参加者を増やすのに効果的な方法として回答が多かったのは、講座等の内容の改善・充実（第1位、80.3%）、住民の学習ニーズの把握（第2位、70.4%）であった。講座参加者の減少傾向の改善に効果的な方法は、前の質問と同様の結果で、講座等の内容の改善・充実（第1位、76.1%）、住民の学習ニーズの把握（第2位、70.4%）であった。公民館の運営や事業の質とはどのような点にあるかについては、講座等のプログラムの内容（第1位、73.2%）、公民館職員の資質（第2位、67.6%）の回答が多かった。さらに、公民館の運営や事業の質の維持・向上に必要なことは、職員の資質向上（第1位、71.8%）が最も多く、次に、講座等の指導者確保（第2位、50.7%）という結果であった。
- 6 このため、「充実、改善したいこと」に2つ以上の内容が記載されている場合、回答の記載によっては、「充実、改善したいこと」の内容と「その取り組みによる変化や成果」と「充実、改善の取り組み」の内容の一对一の対応関係が明確でないことがある。
- 7 「充実・改善したいこと」の内容が多義的な場合は、どのような成果を期待するかを見ることで、内容を焦点化できることがある。また、公民館の問題状況がある診断名に該

当するかどうかの判断は、具体的な状況や経緯等を把握する診断指標を活用して行うことになる。診断名の内容が多義的であると、多くの診断指標が必要になり、状況把握と診断名に該当するかの判断も難しくなる。

### 参考文献

- 中央教育審議会生涯学習分科会（2022）「第 11 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～」
- 原 義彦（2016）「公民館経営診断における「診断名」「改善・整備による成果」「改善・整備」の連関」「一分類項目間のリンケージの構築を意図して」『日本生涯教育学会論集』37, 2016, pp.63-72
- 原 義彦（2017）『公民館経営診断技法のリンケージ開発に関する研究報告—公民館の経営改善事例の調査を通じて—』（科研費成果報告書）
- 黒田裕子（2008）『NANDA-NIC-NOC の理解』第 3 版, 医学書院
- 黒田裕子（2009）『看護診断のためのよくわかる中範囲理論』, 学研
- K.W.M. (Bill) Fulford, EdPeile, Heidi Carroll (大西弘高・尾藤誠司監訳) (2016) 『価値に基づく診療』, メディカル・サイエンス・インターナショナル
- Lorraine Olszewski Walker, Kay Coalson Avant (中木高夫, 川崎修一訳) (2008) 『看護における理論構築の方法』, 医学書院
- マリオ・ジョンソン他 (2006) 『看護診断・成果・介入 第 2 版』, 医学書院
- 文部科学省 (2022) 令和 3 年度社会教育調査 (中間報告) [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa02/shakai/kekka/k\\_detail/1419659\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/kekka/k_detail/1419659_00001.htm) (2022 年 10 月 20 日参照)
- NANDA インターナショナル編 (2009) 『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2009-2011』, 医学書院
- Robert L. Trowbridge, Joseph J. Rencic, Steven J. Durning (志水太郎訳) (2016) 『診断推論のバックステージ』, メディカル・サイエンス・インターナショナル

\* 本稿は、JSPS 科研費 16K04528, 20K02479 の助成を受けた研究成果の一部である。

(はら よしひこ 東北学院大学教養学部 教授)